

〈特集「(連用修飾的) 複文」〉

ドイツ語

成田 節

特集「(連用修飾的) 複文」のアンケートに沿って、ドイツ語の例文を挙げながら簡単な説明を付ける。¹

(1) 彼はいつも新聞を読みながら朝ご飯を食べる。

a. ²*Er frühstückt immer Zeitung lesend.*

he_{nom.} breakfasts_{pres.} always newspaper_{acc.} reading_{pres-part.}²

【同時動作】は原則として現在分詞で表すことができるが、表現される事柄によって容認度は異なるようだ。lesen「読む」の現在分詞 lesend を使い「新聞を読みながら」を表すことは文法的には可能だが、aのような表現はあまり用いられないという。インフォーマントによると、「朝ごはんを食べる」に対して「新聞を読む」は現在分詞で表せるほど付随的と見なしにくいとのことだ。むしろbのように「新聞を読む」を主文にし、「朝食を食べる間に」を従属文で表すか、cのように「朝食の際に」の意味の前置詞句で表すという。

b. *Er liest immer Zeitung, während er frühstückt.*

he_{nom.} reads_{pres.} always newspaper_{acc.} while he_{nom.} breakfasts_{pres.} 彼はいつも新聞を読む、彼が朝食を食べる間。³

c. *Beim Frühstück liest er immer Zeitung.*

at-the breakfast reads_{pres.} he_{nom.} always newspaper_{acc.} 朝食の際に彼はいつも新聞を読む。

逆に「読みながら新聞を読む」なら「新聞を読む」に対して「読みながら」が十分に付随的と見なせるのでdは問題ないとされた。

d. *Er liest kauend Zeitung.*

¹ 例文の容認度判定に際して、本学のディアナ・バイヤー＝タグチ特任講師の協力を得ることができた。例文の容認度は当然インフォーマントによっても異なる場合があると考えられるので、本稿では適宜インターネットなどの事例で補った。また、匿名の査読者から多くの有益な示唆を得られ、よりアンケートの趣旨に沿った例文を挙げることもできたと思う。

² 本稿ではグロスに以下の略号を使う。acc.対格, dat.与格, inf.不定形, nom.主格, past.過去形, past-part.過去分詞, perf-aux.完了の助動詞, pres.現在形, pres-part.現在分詞, refl.再帰代名詞, subj-I.接続法第1式(接続法現在), subj-II.接続法第2式(接続法過去)。なお定動詞の人称と数は主語(本稿の例文では主格 nom は全て主語)と一致するので, 3.sg. (3人称単数)などの標示は省略した。

³ アンケートの例文に変更を加えた場合、グロスに続けてドイツ語の例文の逐語訳風和訳を添える。

he_{nom} reads_{pres} chewing_{pres-part} newspaper_{acc}. 彼は噛みながら新聞を読む。

また、「歌いながら階段を下りる」や「微笑みながら挨拶をする」ならば現在分詞で問題ないという。「階段を下りる」「挨拶する」にたいして「～ながら」が十分付随的と見なせるからだろう。

e. *Sie kam singend die Treppe herunter.*

she_{nom} came_{past} singing_{pres-part} the stairs_{acc} down 彼女は歌いながら階段を下りる。

f. *Er grüßt lächelnd die Gäste.*

he_{nom} greets_{pres} smiling_{pres-part} the guests_{acc}. 彼は微笑みながら客に挨拶をする。

なお辞書には *Zeitung lesend* と並んで *zeitunglesend* という書記法も挙げられている。インターネットで検索すると *Bill Gates liegt zeitunglesend am Strand*. 「ビル・ゲイツは新聞を読みながら浜辺で横になっている。」といった事例がヒットした。ドイツ語で同時進行動作を表すのに現在分詞が容認されるかどうかは、主文の述語動詞が表す動作・行為とのバランスに左右されるようだ。

(2) (私は) 昨日は 10 時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました。

a. *Um 10 Uhr nach Hause gekommen, sah ich gestern ein bisschen fern und ging dann ins Bett.*

at 10 o'clock to house (=home) come_{past-part} saw_{past} I_{nom} yesterday a bit far (sah ... fern =watched television) and went_{past} then into-the bed 10時に帰宅し、私は昨日少しテレビを見た、そしてそれからベッドに入った。

b. *Ich kam gestern um 10 Uhr nach Hause, sah ein bisschen fern und ging dann ins Bett.*

I_{nom} came_{past} yesterday at 10 o'clock to house saw_{past} a bit far and went_{past} then into-the bed 私は昨日 10時に帰宅した、少しテレビを見た、そしてそれからベッドに入った。

c. *Ich bin gestern um 10 Uhr nach Hause gekommen, habe ein bisschen ferngesehen und bin dann ins Bett gegangen.*

I_{nom} am_{perf-aux-pres} yesterday at 10 o'clock to house come_{past-part} have_{perf-aux-pres} a bit far-seen_{past-part} and am_{perf-aux-pres} then into-the bed gone_{past-part} 私は昨日 10時に帰宅した、少しテレビを見た、そしてそれからベッドに入った。

【継起的動作・物語的連鎖】(2)の「10時に家に帰って」は原則として a のように過去分詞を使って表すことができる。ただしインフォーマントは個人的には b のように主文を並列するほうが自然に感じられるとのことである (なお *sah ... fern* は分離動詞 *fernsehen* 「テレビを見る」の過去形)。この場合、2 文目以降は主語が省略される。「テレビを見た、寝た」という過去の事柄は原則として b のように過去形でも、c のように現在完了形 (*bin ... gekommen, habe ... ferngesehen, bin ... gegangen*) でも表せる。(以下の例文ではどちらか一方のみを挙げる。)

(3) (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。

a. *Auf der Treppe gestürzt, habe ich mich gestern verletzt.*

on the stairs tumbled_{past-part} have_{perf-aux-pres} I_{nom} myself_{refl-acc} yesterday injured_{past-part} 階段で転んで、私は昨日ケガをした。

b. *Ich bin gestern auf der Treppe gestürzt und habe mich dabei verletzt.*

I_{nom.} am_{perf-aux.pres.} yesterday on the stairs tumbled_{past-part.} and have_{perf-aux.pres.} myself_{refl.acc.} then injured_{past-part.} 私は昨日階段で転んだ, そしてその際にケガをした.

【継起：理由】(3)の「階段で転んで」も(2)と同様, aのように原則として過去分詞を使って表すことができるが, インフォーマント個人としてはbのように主文を並列する方が自然に感じられるとのことであった. また, 英語のso thatに対応するso dassでcのように因果関係を明示することもできるが, インフォーマントによると書き言葉的に感じられるとのことだった.

c. *Ich bin gestern auf der Treppe gestürzt, so dass ich mich dabei verletzt habe.*

I_{nom.} am_{perf-aux.pres.} yesterday on the stairs tumbled_{past-part.} so that I_{nom.} myself_{refl.acc.} then injured_{past-part.} have_{perf-aux.pres.} 私は昨日階段で転んだ, その結果私はその際にケガをした.

(4) 今日も父は会社に行って, 兄は大学に行った.

a. *Auch heute fuhr mein Vater in die Firma und mein Bruder fuhr zur Uni.*

also today went_{past} my father_{nom.} into-the firm and my brother_{nom.} went_{past} to-the university 今日も父は会社に行った, そして兄は大学に行った.

【異主語】主語が異なる場合は, 上の(2)や(3)とは異なり「父は会社に行って」を過去分詞などの非定形動詞で表すことはできない. aのように主文を並列するのが自然な表現となる. なおこの場合, 同じ動詞を繰り返すと冗長に感じられるので, 2回目の動詞を省略するbの方が自然に感じられるとのことである.

b. *Auch heute fuhr mein Vater in die Firma und mein Bruder ϕ zur Uni.*

also today went_{past} my father_{nom.} into-the firm and my brother_{nom.} to-the university 今日も父は会社に行った, そして兄は大学に.

またcのように, 対比を表す従属の接続詞währendを使うこともできる. いずれにしても定形動詞を2つ使う必要がある.

c. *Auch heute fuhr mein Vater in die Firma, während mein Bruder zur Uni fuhr.*

also today went_{past} my father_{nom.} into-the firm while my brother_{nom.} to-the university went_{past} 今日も父は会社に行った, 一方兄は大学に行った.

(5) (あの人は) 今日帽子をかぶって歩いていた.

a. *[?]Er ging heute einen Hut tragend vorüber.*

he_{nom.} went_{past} today a hat_{acc.} wearing_{pres-part.} past 彼は今日帽子をかぶって通り過ぎた.

【付帯状況】「帽子をかぶって」は, aのように現在分詞tragendを用いて表すことは文法的には可能だが, 普通はbのように前置詞句mit einem Hut auf dem Kopf「頭上に帽子を伴って」で表すか, あるいはcのように「帽子をかぶっていた」を主文にする方が自然だとのことだった.

b. *Er ging mit einem Hut auf dem Kopf vorüber.*

he_{nom} went_{past} with a hat on the head past 彼は帽子を被って (<頭に帽子を持って) 通り過ぎた.

c. *Er trug einen Hut, als er an mir vorüberlief.*

he_{nom} wore_{past} a hat_{acc} as he_{nom} past-went_{past} 彼は帽子をかぶっていた, 私の側を通ったとき.

(1)でも触れたが, ドイツ語で同時進行動作や付帯状況を表す現在分詞が容認されるかどうかは, 主文の述語動詞が表す動作・行為とのバランスに左右されるようだ.

(6) (私は) 休みの日はいつも本を読んだり, テレビを見たりしています.

a. *Wenn ich Zeit habe, lese ich oder sehe ich fern.*

when I_{nom} time_{acc} have_{pres} read_{pres} I_{nom} or see_{pres} I_{nom} far (sehe ... fern=watch television) 私に時間があるとき, 私は (本を) 読む, あるいはテレビを見る.

【並行動作】「本を読んだり, テレビを見たりする」は「本を読む oder (または) テレビを見る」で表現できる. この表現で「本を読む」と「テレビを見る」以外の行為も排除されるわけではないとのこと. 日本語学習者向けの辞書である Langenscheidts Lernwörterbuch Japanisch には「昨日は, 映画を見たり買い物をしたりしました.」という日本語表現に対する例文として *Gestern bin ich im Kino gewesen, habe eingekauft usw.* (…映画に行った, 買い物をした, などなど) が挙げられているが, 同じ形式の b はむしろ不自然だと判断された.

b. *Wenn ich Zeit habe, lese ich, sehe ich fern usw.*

when I_{nom} time_{acc} have_{pres} read_{pres} I_{nom} see_{pres} I_{nom} far etc. 私に時間があるとき, 私は (本を) 読む, テレビを見る, などなど.

(7) 時間が5分しかないから, 急いで行こう.

a. *Beeilen wir uns, weil wir nur noch 5 Minuten haben.*

hurry_{subj-I} we_{nom} ourselves_{refl-acc} because we_{nom} only just 5 minutes_{acc} have_{pres} 急ごう, 時間がもう5分しかないから.

b. *Beeilen wir uns, denn wir haben nur noch 5 Minuten.*

hurry_{subj-I} we_{nom} ourselves_{refl-acc} for we_{nom} have_{pres} only just 5 minutes_{acc} 急ごう, と言うのは, 時間がもう5分しかないから.

【理由・カラ】理由を表すには, 従属接続詞 *weil* や *da*, あるいは並列接続詞 *denn* などが用いられうる. 特に *weil* と *denn* の意味・用法の相違について, 関口 (¹⁵1977:325ff.) などに詳しい説明が見られ, おおよそ『発言内容』に関する因由ならば *weil*, 『発言』そのものに関する因由ならば *denn* とまとめられるが, インフォーマントによれば, 例(7)に関しては *weil* を使う aの方が自然に感じられるとのことであった. また, *Beeilen wir uns* 「急ごう」には *mal lieber* 「ちょっと~の方が良い」などを添える方が自然になるとのことだった. いずれにしても, *weil* と *denn* の違いは, 日本語の「から」と「ので」の違い (日本語記述文法研究会編 2008: 122ff.) に対応するようなものではなさそうだ.

(8) 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

a. *Ich bin gestern früher als sonst ins Bett gegangen, weil ich Kopfschmerzen hatte.*

I_{nom.} am_{perf-aux.pres.} yesterday earlier than usual into-the bed gone_{past-part.} because I_{nom.} headaches_{acc.} had_{past.} 私は昨日いつもより早くベッドに入った、私は頭が痛かったから。

b. *Ich bin gestern früher als sonst ins Bett gegangen, denn ich hatte Kopfschmerzen.*

I_{nom.} am_{perf-aux.pres.} yesterday earlier than usual into-the bed gone_{past-part.} for I_{nom.} had_{past.} headaches_{acc.} 私は昨日いつもより早くベッドに入った、と言うのは、私は頭が痛かったから。

【理由・ノデ】(7)と同様に *weil* も *denn* も用いられる。a の従属文は *Weil ich Kopfschmerzen hatte, bin ich gestern früher als sonst ins Bett gegangen.* のように前置することもできる。

c. *Da ich Kopfschmerzen hatte, bin ich gestern früher als sonst ins Bett gegangen.*

as I_{nom.} headaches_{acc.} had_{past.} am_{perf-aux.pres.} I_{nom.} yesterday earlier than usual into-the bed gone_{past-part.} 私は頭が痛かったので、私は昨日いつもより早くベッドに入った。

従属接続詞 *da* は、*weil* ほど因由関係を強調せず、どちらかと言えば聞き手に既知の事柄を因由として挙げる。そのこととも関係し、*da* を用いた従属文は前置されることが多い。

(9) あの人は本を買いに行った。

a. *Er fuhr in die Stadt, um Bücher zu kaufen.*

he_{nom.} went_{past.} into the town in-order books_{acc.} to buy_{inf.} 彼は町に行った、本を買うために。

b. *Er fuhr in die Stadt Bücher kaufen.*

he_{nom.} went_{past.} into the town books_{acc.} buy_{inf.} 彼は本を買いに町に行った。

c. [?]*Er fuhr Bücher kaufen.*

he_{nom.} went_{past.} books_{acc.} buy_{inf.} 彼は本を買いに行った。

d. *Mama fährt meistens am späten Vormittag einkaufen.*

mamma_{nom.} goes_{pres.} mostly in-the late morning shop_{inf.} お母さんはたいてい午前遅く買物に行く。

e. *Er fuhr in die Stadt zum Bücherkaufen.*

he_{nom.} went_{past.} into the town for-the books-buy 彼は町に本購入のために行った。

【移動の目的】最も無標の形式は、英語の *in order to* 不定詞句に相当する a の *um+zu* 不定詞句である。他に、移動動詞（ここでは *fahren* 「(乗り物で) 行く」）に目的の行為を表す動詞 *kaufen* を不定形で添える（目的語 *Bücher* も伴う）形式 b もある。通常は移動動詞には方向表示が必要なので、c は不自然と見なされる。ただし、「買い物に行く」のように習慣的な行為は方向表示を伴わない d のような表現も可能となる。さらに、e のように「本を」と「買う」をまとめてひとつの名詞に転じ、目的を表す *zu* と共に前置詞句の形で「本を買いに」を表現することもできる。

(10) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。

a. *Er machte das Fenster auf, um besser hinausblicken zu können.*

he_{nom} made_{past} the window_{acc} up in-order better out-look to be-able_{inf} 彼は窓を開けた, より良く外を見ること
ができるように。

b. *Er machte das Fenster auf, damit er besser hinausblicken konnte.*

he_{nom} made_{past} the window_{acc} up so-that he_{nom} better out-look could_{past} 彼は窓を開けた, 彼がより良く外を見
ることができるように。

【目的・意図】を表現するには, (9)の a と同じ **um+zu** 不定詞や, 従属接続詞 **damit** などが用い
られる。ただし, **um+zu** 不定詞句は主文の主語と **zu** 不定詞の意味上の主語が同一の場合しか
用いられない。なお, **machte ... auf** は分離動詞 **aufmachen** 「開ける」の過去形。

(11) ここでは夏になると, よく雨が降ります。

a. *Wenn es Sommer ist, regnet es hier viel.*

when it summer_{nom} is_{pres} rains_{pres} it_{nom} here much 夏であるなら, ここでたくさん雨が降る。

b. *Wenn es Sommer wird, regnet es hier viel.*

when it summer_{nom} gets_{pres} rains_{pres} it_{nom} here much 夏になるなら, ここでたくさん雨が降る。

【恒常的条件】条件「(～する) と」は基本的には従属接続詞 **wenn** で表せる。「(夏に) なる」
は **sein** 「～である」と **werden** 「～になる」が可能である。**sein** を使った a は「夏である間ここ
では雨がよく降る」という長期間に亘る叙述になるのに対して, **werden** を使った b は「夏にな
る頃ここでは雨がよく降る」という短期間 (数日間) に限った叙述になり, そのような文脈の
支えが必要な分だけ b は自然さが落ちるようだ。なおインフォーマントによると, **wenn** を使う
従属文よりは c のように前置詞句 **im Sommer** 「夏に (は)」を使う方が自然に感じるとのこと
である。

c. *Im Sommer regnet es hier viel.*

in-the summer rains_{pres} it_{nom} here much 夏にここでたくさん雨が降る。

(12) 窓を開けると, 冷たい風が入って来た。

a. **Wenn ich das Fenster aufmachte, kam ein kalter Wind herein.*

when I_{nom} the window_{acc} up-made_{past} (=opened) came_{past} a cold wind_{nom} in 私が窓を開けると, 冷たい風が入っ
て来た。

b. *Als ich das Fenster aufmachte, kam ein kalter Wind herein.*

when I_{nom} the window_{acc} up-made_{past} came_{past} a cold wind_{nom} in 私が窓を開けたとき, 冷たい風が入って来た。

【確定条件・生起】この事態は条件と帰結ではなく, 継起的連続と見なされ, 「(～する) と」
という **wenn** による条件形式は不自然になる。同時性を表す従属接続詞 **als** 「(～した) とき」を
用い, 動詞も過去を表す時制になる。もっとも「(～する) ときはいつも…だった」という文脈

でなら、過去の事態を表す場合でも *wenn* が使用可能になる。

c. *Wenn ich nach Hause kam, war niemand da.*

when I_{nom} to house (=home) came_{past} was_{past} nobody_{nom} there 私が家に帰ったとき (はいつも), だれもいなかった。

(13) 丘を上ると, 海が見えた。

a. **Wenn ich den Hügel hinaufkam, konnte ich das Meer sehen.*

when I_{nom} the hill_{acc} up-came_{past} could_{past} I_{nom} the sea_{acc} see_{inf} 私が丘を上ったら, 私は海を見ることができた。

b. *Als ich den Hügel hinaufkam, konnte ich das Meer sehen.*

when I_{nom} the hill_{acc} up-came_{past} could_{past} I_{nom} the sea_{acc} see_{inf} 私が丘を上ったとき, 私は海を見ることができた。

【確定条件・発見】これも(12)と同様に *wenn* による条件形式は不自然で, *als* 「(～した) とき」を用い, 動詞も過去を表す時制になる。

(14) 明日雨が降ったら, 私はそこに行かない。

a. *Wenn es morgen regnet, gehe ich nicht dorthin.*

if it_{nom} tomorrow rains_{pres} go_{pres} I_{nom} not there もし明日雨が降るなら, 私はそこに行かない。

b. *Regnet es morgen, [dann] gehe ich nicht dorthin.*

rains_{pres} it_{nom} tomorrow [then] go_{pres} I_{nom} not there 明日雨が降るなら, 私はそこに行かない。

【仮定条件】*wenn* を使い, 定形動詞は直説法現在形になる。*wenn* を使わずに定形動詞を前置して *regnet es morgen* とすることでも, 「～たら」という条件を表すことができる。

(15) もっと早く起きればよかったなあ。

a. *Ich wünschte, ich wäre etwas früher aufgestanden!*

I_{nom} wished_{subj-II} I_{nom} were_{perf-aux-subj-II} a-little earlier get-up_{past-part} 私は願うのだが, 私がもう少し早く起きたことを。

b. *Ich wollte, ich wäre etwas früher aufgestanden!*

I_{nom} wanted_{subj-II} I_{nom} were_{perf-aux-subj-II} a-little earlier get-up_{past-part} 私は望むのだが, 私がもう少し早く起きたことを。

【反実仮想】「～すればよかったなあ」は「私は願う・望む」を母型文とし, 「私が～した(ことを)」を埋め込み文として表すことができる。a と b は逐語訳すれば「私は願う・望むのだが, 私が少し早く起きたことを」となる。「願う・望む」の *wünschte/wollte* は接続法第2式とされるが (Duden Grammatik 2009: 521, 小学館独話大辞典 *wollen* の IIa)②, 形は過去形と同じである。

「私が～した」は完了形を使い完了の助動詞 ((15)では *sein*) を接続法第2式にする。なお, 反実仮想は従属接続詞 *wenn* を伴う条件文の形でも表せるが, これは(25)で取り上げる。

(16) あんなどころに行かなければよかった。

a. *Ich wünschte, ich wäre nicht dorthin gegangen!*

$I_{\text{nom.}} \text{ wished}_{\text{subj-II}} I_{\text{nom.}} \text{ were}_{\text{perf-aux.subj-II}} \text{ not there gone}_{\text{past-part.}}$ 私は願うのだが、私がそこに行かなかったことを。

b. *Ich wollte, ich wäre nicht dorthin gegangen!*

$I_{\text{nom.}} \text{ wanted}_{\text{subj-II}} I_{\text{nom.}} \text{ were}_{\text{perf-aux.subj-II}} \text{ a-little earlier get-up}_{\text{past-part.}}$ 私は望むのだが、私がそこに行かなかったことを。

【反実仮想・前件否定】これも(15)と同様の形式で表せる。前件が肯定か否定かは関与しない。

(17) 1に1を足せば、2になる。【一般的真理】

a. *Wenn man eins und eins addiert, bekommt man zwei.*

$\text{if one}_{\text{nom.}} \text{ one and one adds}_{\text{pres. gets}_{\text{pres.}} \text{ one two}}$ 1に1を足せば、人は2を得る。

b. *Eins und eins ist/sind/macht zwei.*

$\text{one and one is}_{\text{pres/are}_{\text{pres./makes}_{\text{pres.}} \text{ two}}$ 1と1は2だ/2になる。

c. *Eins plus eins ist/sind zwei.*

$\text{one plus one is}_{\text{pres/are}_{\text{pres.}} \text{ two}}$ 1足す1は2だ。

【一般的真理】も条件と帰結の組み合わせで表すことができる。インフォーマントによると aのような表現も全く自然だとのことだった。他に「1足す1は2だ/になる」に当たる bやcのような表現も可能である。

(18) 駅に着いたら電話をしてください。

a. *Rufen Sie mich bitte an, wenn Sie am Bahnhof angekommen sind.*

$\text{ring}_{\text{subj.}} \text{ you}_{\text{nom.}} \text{ me}_{\text{acc.}} \text{ please up if you}_{\text{nom.}} \text{ at-the station arrived}_{\text{past-part.}} \text{ are}_{\text{perf-aux.pres.}}$ 私に電話をしてください、あなたが駅に着いたら。

【仮定条件+働きかけのモダリティ】主文に働きかけのモダリティが含まれていても、仮定条件は接続詞 *wenn* による従属文で表せる。なお、文頭の *rufen* は接続法第1式で、要求を表す用法。また *rufen ... an* は *anrufen* という分離動詞で「電話をする」という意味。なお、仮定条件は前置することもできる。

b. *Wenn Sie am Bahnhof angekommen sind, rufen Sie mich bitte an.*

$\text{if you}_{\text{nom.}} \text{ at-the station arrived}_{\text{past-part.}} \text{ are}_{\text{perf-aux.pres.}} \text{ ring}_{\text{subj.}} \text{ you}_{\text{nom.}} \text{ me}_{\text{acc.}} \text{ please up}$ あなたが駅に着いたら、私に電話をしてください。

(19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

a. [?]*Ich möchte mit euch zusammen in den Park gehen, wenn der Sonntag kommt.*

I_{nom.} would-like-to with you together into the park go_{inf.} if the Sunday comes_{pres.} 私は君たちと一緒に公園に行きたい、日曜日が来るなら。

b. *Am kommenden Sonntag möchte ich mit euch zusammen in den Park gehen.*

an-the coming Sunday would-like-to I_{nom.} with you together into the park go_{inf.} 来たる日曜日に私は君たちと一緒に公園に行きたい。

【仮定条件+願望】「日曜日が来る」ことは確実なので、*wenn* を使う仮定条件の a は不自然で、b の *am kommenden Sonntag* 「来たる日曜日に」といった前置詞句で仮定条件の代わりとするのが自然だとのこと。ただし「仮定条件+願望」という組み合わせ一般が不可能ということではなく、主文が願望を表す場合でも、「仮定条件」が適切であれば c のように自然な文となる。

c. *Ich möchte mit euch zusammen in den Park gehen, wenn das Wetter morgen schön ist.*

I_{nom.} would-like-to with you together into the park go_{inf.} if the wether_{nom.} tomorrow fine is_{pres.} 私は君たちと一緒に公園に行きたい、天気が明日良いなら。

(20) 明日雨が降ったら困るなあ。

a. *Wenn es morgen regnet, habe/hätte ich ein Problem.*

if it_{nom.} tomorow rains_{pres.} have_{pres.}/had_{subj-II.} I_{nom.} a problem_{acc.} 明日雨が降るなら、私は困る/困るだろうなあ。

【心配】「雨が降ったら」を条件文、「困るなあ（やっかいだ<問題を持つ）」を帰結文の形で表す。条件文の動詞は直説法現在形 (*regnet*)、帰結文の動詞は直説法現在形 (*habe*) または接続法第2式 (*hätte*) になる。なお、条件文を後置することもできる。

b. *Ich habe/hätte ein Problem, wenn es morgen regnet.*

I_{nom.} have_{pres.}/had_{subj-II.} a problem_{acc.} if it_{nom.} tomorow rains_{pres.} 私は困る/困るだろうなあ、明日雨が降るなら。

(21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。

a. *Wenn Sie uns besuchen, rufen Sie uns bitte vorher an.*

if you_{nom.} us_{acc.} visit_{pres.} call_{subj-I.} you_{nom.} us_{acc.} please before up あなたが私たちを訪問するなら、私たちに事前に電話をしてください

【時間的前後関係に則していないナラ条件文】a は「うちに来るなら、事前に電話をしてください」ということなので、「うちに来る」は「電話をする」より後に起こることになる。このように帰結より前に起こることを表す条件「～なら」も *wenn* 条件文で表すことができる。

なお、「主題と関連のある条件形式」としては、次の b のような *wenn* の用法を挙げることができる。「ドイツ人が『今夜』と言ったら、それは…」は「ドイツ人の言う『今夜』は」と同じことで、主題提示と見なすことができる。

b. *Wenn der Deutsche „heute nacht“ sagt, so meint er damit nicht die kommende, sondern die vergangene Nacht.* (関口¹⁵1977:85)

if German_{nom.} “today night” says_{pres.} so means_{pres.} he_{nom.} with-it not the coming, but the bygone night_{acc.} ドイツ人

が「今夜」と言うのは、これから来る夜ではなく、過ぎ去った夜のことである。

特に話し言葉では、Diesem Kerl, dem werde ich nie mehr etwas ausleihen!「あの野郎には、あいつには二度とものを貸してやらないぞ！」のように、主文の定動詞 *werde* の前（前域：*dem*）のさらに前（前前域：*diesem Kerl*）で主題を提示することがあるが（Duden Grammatik⁸2009: 885），*b* でも主文の定動詞 *meint* の前（前域）に *so* 「それなら」があり，*wenn* で始まる条件文は前前域に現れていることになる。

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

a. *Sagen Sie es mir bitte, wenn es klingelt.*

say_{subj-I}-you_{nom}-it_{acc}-me_{dat}-please if it_{nom}-rings_{pres} 私にそれを教えてください、ベルが鳴ったら。

b. **Sagen Sie es mir bitte, falls es klingelt.*

say_{subj-I}-you_{nom}-it_{acc}-me_{dat}-please in-case it_{nom}-rings_{pres} 私にそれを教えてください、もしもベルが鳴ったら。

【予想を伴った条件文】は従属接続詞 *wenn* を用いて表すことができる。なお、条件文の動詞 *klingelt* は直説法現在形である。

(23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。

a. *Sagen Sie es mir bitte, wenn es klingelt.*

say_{subj-I}-you_{nom}-it_{acc}-me_{dat}-please if it_{nom}-rings_{pres} 私にそれを教えてください、ベルが鳴ったら。

b. *Sagen Sie es mir bitte, falls es klingelt/klingen sollte.*

say_{subj-I}-you_{nom}-it_{acc}-me_{dat}-please in-case it_{nom}-rings_{pres}/ring_{inf}-should_{subj-II} 私にそれを教えてください、もしもベルが鳴ったら鳴るようなことがあれば。

【予想を伴わない条件文】にも *a* のように *wenn* を用いることはできるが、*b* のように従属接続詞 *falls* を用いると「予想外」という意味が明示できる。さらに話法の助動詞 *sollte* (*sollen* の接続法 2 式) を添えることで「万が一」という意味を強調することもできる。

(24) 働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。

a. *Wer nicht arbeitet, soll auch nicht essen.*

whoever_{nom}-not works_{pres}-should_{pres}-too not eat_{inf} 働かない者は、食べるべきでもない。

【**相関構文**】Dal (1966: 200f.)によると、*wer* は本来、疑問代名詞「誰が？」と不定代名詞「誰かが」を兼ねていて、後者を用いた *so wer so ...* 「...する (*so ...* は関係文) そのような誰か (*so wer*)」から発達した表現だということだが、ドイツ語の授業で *wer* はまず最初に疑問代名詞として導入しているので、「誰が働かないの？」から「誰が働かないの？その人は...」を経て「働かない人は...」に転じた表現だと説明することもできる。

(25) もう少しお金があったらなあ。

Wenn ich doch/nur etwas mehr Geld hätte!

if I_{nom.} (particle)/only a-little more money_{acc.} had_{subj-II.} もし私にもう少し多くの金があ(りさえす) れば。

【言いさし・願望】 従属接続詞 *wenn* を伴う条件文の形で、述語動詞を接続法第2式 (*hätte*) にして表現できる。通常は *doch* 「やっぱり」や *nur* 「さえ」などを伴う。

(26) これも食べたら？

a. *Wenn du das hier auch mal probierst.*

if you_{nom.} this_{acc.} here too (particle) taste_{pres.} 君はこれもちよっと試したら。

b. *Wenn du das hier auch mal probieren würdest.*

if you_{nom.} this_{acc.} here too (particle) taste_{inf.} would_{subj-II.} 君はこれもちよっと試してみたら。

c. *Probier das hier auch mal!*

taste_{imper.} this here too (particle) これもちよっと試しなよ。

d. *Magst du das hier auch mal probieren?*

want-to_{pres.} you_{nom.} this here too (particle) taste_{inf.} 君はこれもちよっと試してみたい？

【言いさし・提案】 従属接続詞 *wenn* を伴う条件文の形で表現できる。定動詞は a では直説法現在形, b では接続法第2式となっている。この他にcのような命令文, あるいはdのような疑問文の形で表すこともできる。

(27) やりたいなら (自分の) 好きなようにやれば？

a. *Du magst tun, was du willst.*

you_{nom.} may_{pres.} do_{inf.} what you want_{pres.} 君はすればよい, 君がしたいことを。

【言いさし・つき放し】 「つき放し」のニュアンスはaのように助動詞 *mögen* で表すことができる。(25)や(26)のように *wenn* を用いた条件文の言いさしでは「つき放し」のニュアンスを表すことはできない。なおbのように, 助動詞 *mögen* が文頭に置かれることもある。

b. *Mag er nur gehen!* 彼が行くというなら行かしてやれ。(小学館独和大辞典)

may_{pres.} he_{nom.} only go_{inf.}

他にcの *tun und lassen können* 「することも止すこともできる」のような慣用的な表現もある。

c. *Du kannst tun und lassen, was du willst.*

you_{nom.} can_{pres.} do_{inf.} and stop_{inf.} what you want_{pres.} 君はすることも止すこともできる, 君がしたいことを。

(28) このコップは落としても割れない。

Dieses Glas zerbricht nicht, auch wenn es auf den Boden fällt.

this glass_{nom.} breaks_{pres.} not even if it_{nom.} on the floor falls_{pres.} このグラスは割れない, それが床に落ちてても。

【仮定的な逆接】 (28) のような「～しても」は *auch wenn* で始まる従属文で表せる。動詞はどちらも直説法現在形である。

(29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。

a. *Diese Äpfel schmecken gar nicht süß, obwohl sie sehr teuer waren.*

these apples_{nom.} taste_{pres.} at-all not sweet although they_{nom.} very expensive were_{past.} これらのりんごは全然甘い味がしない、それらはとても高かったにもかかわらず。

b. *Diese Äpfel waren sehr teuer, aber sie schmecken gar nicht süß.*

these apples_{nom.} were_{past.} very expensive but they_{nom.} taste_{pres.} at-all not sweet これらのりんごはとても高かった、けれどそれらは全然甘い味がしない。

【アクチュアルな逆接】前件の「～したのに」は a のように *obwohl* で始まる従属文で表すことができる。または、b のように後件の前に並列接続詞 *aber* 「けれど」を置いて逆接関係を表すこともできる。

(30) 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

a. **Obwohl ich zu ihm ging, war er nicht da.*

although I_{nom.} to him went_{past.} was_{past.} he_{nom.} not ther 私は彼の家に行ったけれど、彼はいなかった。

b. *Als ich zu ihm ging, war er nicht da.*

when I_{nom.} to him went_{past.} was_{past.} he_{nom.} not ther 私が彼の家に行ったとき、彼はいなかった。

c. *Ich ging zu ihm, aber er war nicht da.*

I_{nom.} went_{past.} to him but he_{nom.} was_{past.} not ther 私は彼の家に行った、しかし彼はいなかった。

【逆接 3】逆接は一般的に(29)a のように *obwohl* で始まる従属文で表すことができるが、「私が彼の家に行く」ことと「彼が家にいない」ことは必ずしも相反する事柄ではないので、(30)a のように従属接続詞 *obwohl* 「～にもかかわらず」を使って表すことはできない。「彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。」という事態は、b のように従属接続詞 *als* 「～したとき」を用いるか、c のように並列接続詞 *aber* 「しかし」を用いて表す。ただし、例えば「私は彼に頼んだ」と「彼は荷物を持って行かなかった」のように相反する二つの事柄の逆接ならば d のように従属接続詞 *obwohl* を用いることができる。

d. *Er hat das Paket nicht mitgenommen, obwohl ich ihn darum gebeten hatte.*

he_{nom.} has_{perf-aux.pres.} the packet not taken_{past-part.} although I_{nom.} him_{acc.} for-it asked_{past-part.} had_{perf-aux.past.} 彼は荷物を持って行かなかった、私は彼にそれを頼んだにもかかわらず。

参考文献

関口存男 (1977) 『独作文教程』 三修社

日本語記述文法研究会編 (2008) 『現代日本語文法 第 11 部 複文』 くろしお出版。

Dal, Ingerid (1966) *Kurze deutsche Syntax. Auf historischer Grundlage.* Tübingen: Niemeyer.

Duden (2009) Die Grammatik. Mannheim/Wien/Zürich: Dudenverlag